

第19回 知能ロボットコンテスト2007

2007年6月23日(土)と24日(日)の2日間に渡って、宮城県仙台市にある仙台市科学館にて、知能ロボットコンテスト・フェスティバル2007が行われた。大会のメインは、今年で第19回目となる知能ロボットコンテスト。競技台上に配置されたボールや空き缶などのオブジェクトを対応するゴールに入れるという、他のロボコンと比較すると非常にシンプルなルールで19年間行われてきたロボコンである。しかしながら、ロボットの動作はマイコン等で完全に自動で行わなければならないことと、そして競技点のみならず技術性・パフォーマンス性を審査する『審査員点』が存在すること。この2つの要因により知能ロボコンには『必勝術』は存在せず、今年も技術・デザイン・アイデアに磨きをかけた個性豊かなロボット達が熱戦を繰り広げた。 baby touch

チャレンジコース
優勝

『スウィーティー』
もやねのアトリエ



テクニカルコース
優勝

『風兎2007』
山口辰久氏
(京都大学機械研究会 OB)



『知能ロボコン』とは?

今年で19回目となる、この知能ロボットコンテスト。東北地方で行われる唯一の全国規模のロボットコンテストであり、宮城、福島、山形などの東北地方からはもとより、東京や京都など、遠くは九州からも参加者を集める大会である。その競技内容は、1.8メートル×1.8メートルの広さの競技台に配置されたオブジェクトを、対応したゴールに入れることによって獲得し

た点数を競うものであり、オブジェクトとして3色各5個のスポンジボールを用いるチャレンジコースと、テニスボールと空き缶、せっけん箱を用いるテクニカルコースの2つのコースからなる。

チャレンジコースでは3色のスポンジボール各5個ずつが競技台上にランダムに配置され、色に対応したゴールにボールを入れると3点、違う色のゴールに入れると1点となる。その他に競技台上の任意の位置に置くことが可能な自由ボールが

1つあり、これをゴールすると5点が加算される。すべてのボールを正しくゴールに入れると競技点は50点、そしてパフォーマンス性・チャレンジ性・芸術性・スピード感を評価する審査員点が最高で50点加算され、2つの合計の計100点満点で争われる。

テクニカルコースでは、オブジェクトとして7個のテニスボールと4個の空き缶、4個のせっけん箱が配置される。空き缶と箱は対応したゴールに入れると6点、ボー



チャレンジコースのオブジェクト配置



テクニカルコースのオブジェクト配置



テクニカルコースに配置されるオブジェクトの『タワー』